



歴史

「風刺画」を利用し思考力の育成をめざした授業 ～帝国主義と日本の学習を通して～

栃木県 日光市立落合中学校 須江信之

1 はじめに

昨今、北朝鮮をめぐる世界が動き始めているが、生徒たちに東アジアの地図を示し、北朝鮮、ロシア、韓国、中国の位置をたずねてみると、思いのほか正答率は低い。ニュース番組などでくり返し報道されてはいるが、「韓国と北朝鮮の違いがわからない」という生徒もいる。生徒の生活のなかで世界情勢や、地理的、位置的なものはあまり意識されないようである。

一方、歴史的な思考力を育成するためには、まずその事象の背景や、当時の情勢を知ることが重要となる。最近の授業のなかには、背景や人物、当時の状況などを把握させないまま、人

物の心情や考え方などを思考させるものも散見される。しかし、「歴史的思考力」を育成するにあたっては、「思考」のもととなる基本的な情報がなければならぬと考えている。思考のもととなる基本的な情報を得る段階から、生徒にまかせていく形の学習によって、思考力を育成しようとするには少し無理があるのではないだろうか。

では、少ない授業数で当時の状況や事象の背景を把握させるには、どのような方法が効果的なのだろうか。そこで考えられるのが、「風刺画」などのビジュアルによる認識である。以下、風刺画を利用して、当時のアジアや世界の情勢を視覚的に捉え、各国の思惑などを思考させる授業を提案したい。

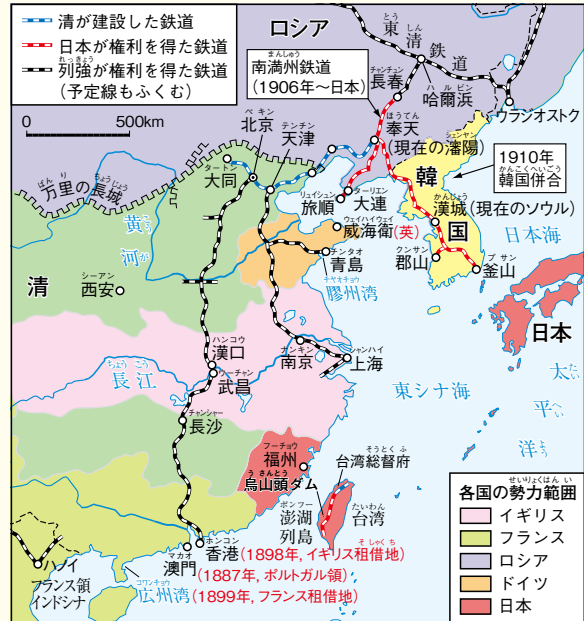
表1 単元の指導計画

時限	学習目標	教師の支援
第1時 アジアの列強をめざして（本時） ○帝国主義 イギリス対ロシア ○条約改正への努力 ○朝鮮をめぐる東アジアの情勢	政府は「一等国」になるため、どのような取り組みを行ったのか、国際関係に着目しながら調べよう。	朝鮮半島をめぐる東アジアの動きについて、風刺画（図1）を利用して捉えるとともに、各国の思惑について考えさせる。
第2時 朝鮮をめぐる対立 日清戦争 ○日清戦争 ○三国干渉と列強の清への進出	日本と清との間でどのような対立があり、その結果どのようなようになったのか、考えてみよう。	日清戦争の結果、欧米諸国が次々に清に進出したことに地図（図3）や風刺画（図2）などを活用しながら気づかせる。
第3時 世界が注目した日露戦争 ○義和団の抵抗 ○日露戦争 ○日露戦争の影響	日本とロシアとの戦争の結果、日本は世界のなかでどのような地位を得たのかを考えてみよう。	日本とロシアだけでなく、イギリスやアメリカ、清や韓国との関係もふくめて考えやすくするため風刺画（図4）を利用する。
第4時 ぬりかえられたアジアの地図 ○変わるアジアの意識 ○韓国併合と植民地・「満州」での政策	日清・日露戦争ののち、日本の国際的な地位、朝鮮・中国での変化などを資料から読み取ろう。	日本が日露戦争に勝利したことで、日本の国際的な地位が向上したことを風刺画（図6）から読み取らせる。

左上：図1 『社会科 中学生の歴史』 p.178
 「①魚釣り遊び」(写真：悠工房)

左下：図2 『アドバンス中学歴史資料』 p.148
 「①中国を分割する列強」(写真：ユニフォトプレス)

右下：図3 『社会科 中学生の歴史』 p.179
 「④欧米諸国の清への進出」



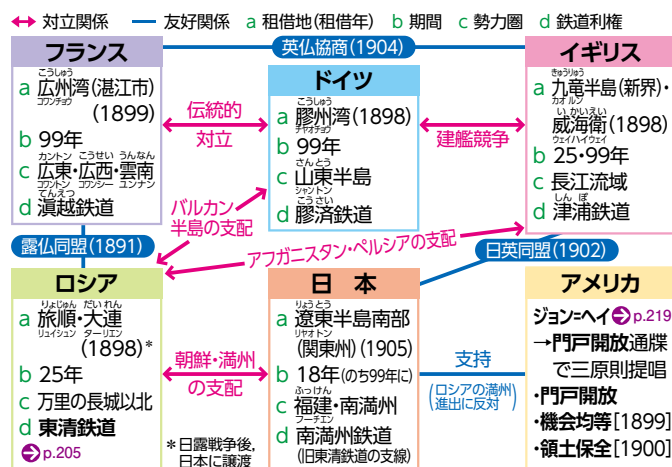
(1) 風刺画の利用

図1の風刺画は、日清戦争前の東アジアの情勢をよく表している。この絵を利用することで、朝鮮半島進出を狙う日本と、既存の権益を守ろうとする清国、「漁夫の利」を得ようとするロシアの関係が視覚的に捉えられる。これを、白地図と文字だけで説明すると具体的なイメージがもてない生徒がいる。風刺画をあわせて使うことで、イメージが具体的になっていく。

図2の風刺画は、日清戦争後の清国を分割しようとする列強を表しているが、風刺画だけではイメージがつかみにくいため、補助資料として『社会科 中学生の歴史』(以下、教科書) p.179 「④欧米諸国の清への進出」(図3)のような地図を示すとよいだろう。この学習の際、欧米の思惑だけでなく、分割される側の清国民の心情などもあわせて考えさせることが重要である。

2 本單元における風刺画の活用

「帝国主義と日本」の学習を展開していくが、これまでの日清・日露戦争の学習というのと、とかく戦争の原因、経過、結果(条約の内容と戦後の地理的情勢)という、知識重視の学習活動を行うことが多かった。また、その単元を通して思考力を育成する授業では、戦地におもむいた兵隊や、その家族の心情などを考えさせるような授業がみられた。しかし、この単元の学習では、なぜ日本が韓国を併合したのかという大きな課題と向き合わなければならない。その課題を解決するためには、「風刺画」を利用して、当時の東アジアをめぐる各国の思惑や、動きなどについて大観していく必要がある。



左：図4 日本における古き英国（写真：ユニフォトプレス）

右：図5 『最新世界史図説タペストリー十五訂版』 p.231 「⑩日露戦争時の列強間の利害」

図4は日露戦争前の世界情勢を表しているが、イギリス、アメリカの思惑、日本のおかれている立場や大陸進出の思惑などを読み取ることができ、生徒の思考力を育成する手だてとなる。当時の清国内におけるイギリスの権益がわかる高等学校世界史資料集『最新世界史図説タペストリー十五訂版』 p.231 「⑩日露戦争時の列強間の利害」(図5)のような資料や、租借地などが具体的に捉えられる教科書p.179④(図3)

のような地図資料、ロシアの南下政策がイメージできる教科書p.176「②ヨーロッパ諸国の力関係を風刺した絵地図」などの資料とあわせて用いるとより有効であろう。

図6は日露戦争に勝利し、植民地を獲得したのちの列強のようすを表している。「脱亜入欧」や「一等国」をめざして、明治維新から始まった国づくりが形として現れ、日本が列強の仲間入りをしている。この絵を利用して、日本が列

表2 本時の学習

学習活動	指導上の留意点
1 帝国主義 ○帝国主義についてこれまでの学習内容から確認する。 ○学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 政府は「一等国」になるため、どのような取り組みを行ったのか、国際関係に着目しながら調べよう。 </div>	■「帝国主義」とはどのような動きであるかを把握させる。 ■一等国になるためには、条約改正がぜひ必要であると考えていたことに気づかせる。 ■東アジアにおける位置的な関係について風刺画(図1)と白地図を利用して捉えさせる。 ■日本、清国、ロシアの立場について話し合わせ、ふき出しの中に記入させる。 ■「一等国」になるために政府が、条約改正や植民地獲得に努力しようとしたことに気づかせる。
2 条約改正への努力	
3 朝鮮をめぐる東アジアの情勢 ○グループで話し合いながら、ワークシートで作業する。 ・人物シールを貼りつける。 ・3つの国の立場についてそれぞれ話し合う。 ・ふき出しの中にそれぞれの国の立場を人物の「台詞」として記入させる。 ○まとめとして、ワークシートに当時の東アジアの情勢と政府の取り組みについて説明する文を自分の言葉で記入する。	

図6 列強クラブの仲間入り (写真：ユニフォトプレス)

強の仲間入りをするために明治維新のときから行ってきたことを、流れとしてつかめるような学習をすると、ペリー来航以来、日本が行った諸改革についてのイメージがつかみやすく、生徒の思考力も伸ばせるのではないだろうか。

(2) 本時で風刺画を利用するうえでの工夫

①白地図の利用

当時の東アジアの状況を、視覚的に捉えさせるためには、風刺画などの資料が不可欠となるが、さらにそれを補足するために、白地図の利用が有効であると考え(帝国書院HP歴史白地図「4. 東アジアの白地図」http://www.teikokushoin.co.jp/teacher/outline_map/history/index.htmlなど)。白地図の利用により、絵だけでなく地形や、国どうしの位置関係も把握できるからである。

②風刺画(図1)の加工

たとえば、図1の風刺画を利用する場合、風刺画と地図を重ねてみると、朝鮮半島をめぐる日本と清国の東西の位置が反対に描かれていることがわかる。そこで、原画を反転させて生徒に示すと、位置関係が把握しやすくなる。しかし、歴史的な資料にはそのものに価値があるので、反転したものをそのまま生徒に示すのではなく、白地図の上に貼るためのシールづくりに活用した。風刺画の人物のまわりに点線をつけて、切り取らせる。それを、あらかじめ用意し

ておいた白地図入りのワークシートの上に貼らせる。その際、念のためそれぞれの人物が、どの国を表しているのかを確認しておきたい。

③ワークシートにおけるふき出しの利用

風刺画は、擬人化された国も含めて人物が出てくることが多いので、ワークシートに生徒の考えたことを書かせる場合、ふき出しの利用が有効である。生徒たちは、ワークシートに書き込みをする場合、教科書や資料集、教師の配付した資料から「正解」を探し出して記入しようとする、いわゆる「答え調べ」をする傾向にあるが、生徒の思考力、表現力を育成しようとするなら、そうした学習はあまり有効ではない。そこで、風刺画を加工して、ふき出しをつけることによって、人物の心情や、思惑などを想像したり、状況から判断したりして書き込むことができるようになると思う。

3 おわりに

生徒の歴史的な思考力を育成する方法は、これまでもさまざまな方法が研究されているが、本実践では、「風刺画」を思考力の育成にどう生かすかを考えた。導入、まとめの場面でも生徒の歴史事象に対するイメージ化を促し、思考力の育成につなげることができた。

風刺画は、近代以降のものが多い。近世以前の学習でも、「場面のイメージ化」は映像があふれているなかで成長してきた生徒にとっては、歴史的な事象を理解し、それらについて考える学習をするうえで重要になってくるであろう。今後もビジュアル的に捉えることが、生徒の理解や思考力を育成するうえでどのように役立っていくのかについて、さらなる研究と工夫を重ねたいと考えている。

帝国書院の指導者専用サイトに、
本授業研究のワークシートを掲載しています。
(<https://www.teikokushoin.co.jp/members/>)